

図書館だより

中央図書館 ☎258-6464
火～金 10:00～19:00 土、日 10:00～18:00
竹間沢分館 ☎274-1722
火～日 11:00～18:00



9月の予定

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	10/1

- 〈中央図書館〉
- ぐりぐらタイム**
(絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)
- 第1・3金曜日
11:00～11:15 6ヶ月～1歳 (保護者同伴)
11:20～11:40 2・3歳～ (保護者同伴)
- 第2・4火曜日
16:00～16:30 3歳～小学生
- ♣かにかにこそこそ
(昔話などを覚えて語る練習会)
- 第3水曜日 10:00～12:00 大人対象
- ブックスタート
(4か月児健診時に、保健センターにて)
- ◎ブックスタートプラス
(2歳児歯科健診のあと、図書館にて)

- 〈竹間沢分館〉
- ぐりぐらタイム**
(絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)
- 第4火曜日 11:00～11:30 6か月～3歳 (保護者同伴)
- ◆スイミーおはなし会
(絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)
- 第4木曜日 16:00～16:30 4歳～小学生

【地域文庫のお知らせ】
(児童書の貸出、お話会など。)

つくし文庫・9月17日(土)、10:00～12:00
場所／上富1区第1集会所にて

あらた文庫・毎週火曜日15:30～18:00
場所／荒田自宅にて
(藤久保536-4 三芳東中学校近く)

【一般書】『紅葉を撮るカメラワーク』
写真テクニックと撮影地紹介！
千葉克介著
主婦と生活社 1998年9月初版発行
請求記号 一般743チバ

目にも鮮やかな紅葉を美しく撮るにはどうしたらよいか。発行から長い時を経た今でも撮影時の工夫を見つけれられる一冊。眺めているだけでも写真の鮮やかさに魅了されます。



【児童書】『落ち葉』
吉平山和子文と絵 平山英三構成と写真
福音館書店 2005年9月初版発行
請求記号 児童653ヒ

ふと目にとまった一枚の落ち葉。じっと眺めていると、だんだんだんだん落ち葉の盛り上がりや穴が山や湖に見えてきて…。きれいな落ち葉に出会えるのが待ち遠しくなる一冊。



【一般書】『冒険家―75歳エベレスト挑戦記―』
三浦雄一郎著
実業之日本社 2008年7月初版発行
請求記号 一般299ニウ

加齢への挑戦。75歳にして2度目のエベレスト登頂を果たした著者。70歳になってから再登頂を決意した。「始めるのに年齢は関係ない。」あたかもそう感じさせる一冊。



【一般書】『山の遭難―あなたの山登りは大丈夫か―』(平凡社新書)
羽根田治著
平凡社 2010年1月初版発行
請求記号 一般786

「山での遭難」をテーマに歴史や統計、救助活動などの話を展開する。そのほか、安易な救助要請の問題やツアー登山、ガイド登山といった最近の傾向について考察した一冊。



図書館の本棚「山登り特集」―山登りがいっそう楽しくなる、そんな1冊を紹介しします。―別冊紹介中

《受講者募集中!》

紙しばいの楽しみ方・演じ方―実技指導あり―
10月15日(土)13:00～16:00 中央図書館にて

内容 演じ方一つで、伝わる世界がガラリと変わる紙芝居。そのコツを学びましょう。

講師 吉松美代子氏 (人形劇団みやしろ代表、紙芝居研究家)

対象 図書館、学校、保育所、地域の施設などで紙芝居を演じている人、興味のある人

定員 40人 (実技指導を受けられるのは4～5人です。)



6年生はかっこいい!! 教育トピックス

三芳町の各小学校では、毎年運動会で鼓笛隊の演技が披露されます。鼓笛隊は6年生で組織され、指揮者を中心に様々な楽器で演奏しながら隊形を変化させていく演技です。学校によってはバトンのチームが加わり、華やかさを加えるところもあります。

鼓笛隊の演技には、チームワークが欠かせません。子どもたちはこの活動を通じて仲間意識をはぐくみ、最高学年としての自覚を高めます。1年生から5年生までの子どもたちは、この演技を見て「自分もこんな6年生になりたい」「6年生はすごい」という意識をもちます。鼓笛隊の演技は、観客の皆様へ感動を与えるだけでなく、子どもたちの自信と誇りの育成にもつながります。

鼓笛の演技を完成させるため、子どもたちは授業時間外はもとより、休み時間や放課後の時間も使って練習をしています。さらに、9月に運動会が開催される小学校では、夏休みにも校庭や体育館で何日も練習を重ねていました。学校の付近を通るときに、子どもたちが一生懸命に練習している姿を目にされた方もいらっしゃるかもしれません。運動会では、一人一人の意欲的な取り組みが演技に表れることでしょう。

地域の皆さんも、お近くの小学校の運動会に足を運ばれ、子どもたちの努力の成果をご覧になってはいかがでしょうか。

図 学校教育課 (☎523)



昨年度の運動会の様子

みよし歴史探訪 文化財を訪ねて 第六回 多福寺の銅鐘

多福寺の山門をくぐると、右手に大きな鐘楼と梵鐘が見えます。この鐘楼は、平成一四年、創建三百年記念としてたてかえられたのですが、つり下げられた梵鐘は「多福寺の銅鐘」と呼ばれ、昭和三九年に埼玉県有形文化財(工芸品)に指定されているものです。

この銅鐘は、江戸の鑄物師椎名伊予守藤原良寛の作で、三富開拓を直接指揮した川越藩の家老曾根権太夫により、三富開拓が終了した元禄九年(二六九六)に

寄進されたものです。大きさは、高さ六尺一寸(約一八四cm)、口径三尺二寸(約九七cm)、厚さ三寸三分(約一〇cm)、重さは三八〇貫(約一四二五kg)といわれ、元禄期の特徴である均整のとれた優美な姿をしています。

銅鐘の池ノ間には、「三富山多福寺鐘銘并序」と題する銘文が刻まれています。前半は、曾根権太夫による元禄九年五月一日の撰文で、吉保が川越に新田を開き、上富中富下富の村の名は孔子の言葉から採ったこと、多福寺建立の意義や賞賛の言葉、新しい村が繁栄することを願う言葉が記されています。後半は、多福寺開山洞天恵水和尚による同年八月吉日の撰文によるもので、三富を開拓し多福寺を創建した吉保への

賞賛や、権太夫の功績をたたえる言葉が刻まれています。古文書によると、五月一六日に鐘楼が完成し、八月六日に本堂の前から鐘楼まで矢来を結び、筵を敷いて釣鐘供養が行われました。鐘のつき始めは洞天和尚、次に権太夫・主計父子、その次に釣鐘作者が果たされ、釣鐘供養終了後、権太夫は集まった大勢の参詣者に、祝い餅を振る舞ったということです。元禄の音に思いをはせて、初秋の多福寺境内を散策してはいかがでしょうか。

図 社会教育課 (☎517)



多福寺鐘楼



銅鐘に刻まれた銘文